

福總新聞

(毎月十日廿五日) 一回
 定價 郵税五厘
 廣告料 別紙五十五銭増
 發行所 福總新聞社
 市島 範三

年頭の感



陽光赫然として東天にノット出れば、瑞氣朗らかに大空に漲り幸ひ多き昭和九年の新年を迎えるとき、心氣自ら高揚し充ちたる希望と理想とに燃ゆるを覺ゆ。

而して本社は多数諸賢の御聲援の賜至として茲新たに十週年の歳月を迎え、尙將來一層の向上と發展とを期し有意義に揚躍せんことを。

幸ひに本社に存意を諒とせられ倍舊の鞭撻と御聲援を蒙る。

願れば多事多難なりし昭和八年も或意義を以つて人間の歴史に刻みつけられたる歡喜と悲哀と。享樂との争闘一切を包んで名残りなく、今や流れ去つて、年頭に際會する吾人等の感情は清澄な魂外周、内面的生活の革新と歡喜とを燃ゆる光明のうちに取入れ、事が出来る時、茲に人間大なる本能的覺醒を深味して最も快心を感ずる理なるを思ふ。

而して麗かなる春は小鳥も頻りに囀り、沈滞氣分も揚然たる心氣の動きとなり、幼童の心意もよみ返るべきその心境がありてこそ、断然として不景氣も貧困も忘れ、大なる力の上に立ち揚躍たる元氣と健康と明朗なる氣分に於いて前進し得て、一年の大計を造出する新春こそは實に吾人に取つて最も尊き時であり得る、吾人等相互は善處の奮闘に共合し、新たな意義に富む昭和九年の間日月を愉快に活動し、愉快に笑ふ事に於て決して、女々しく泣き事を並ぶる事なく敢へて大成の因源をなさんとする事を切望して止まざるものなり。

終りに愛讀者諸君の健康と祝福とを祈願して擱筆す
 昭和九年一月元旦

福總新聞社

社長 市島 範三

お正月は浮世離れた
 城山聚樂園で
 ユツクリと新正の氣
 を味ふことが第一だ!!!
 日當りはよし、空氣はよ
 し、そして氣色はよし、お
 湯は身體に最もよしと四拍
 子揃つた平城山の聚樂園こ
 そは全くお正月の静養場と
 して最適の所だ。一日ユツ
 クリ湯に浸つてそれで二十
 銭が三十銭で済むと云ふ安
 賃だ、亦英武を養に人のた
 めにも大弓場の設備がある
 湯を守る正直なお爺さん小
 島藤太君は誠意なく客を待
 遇してくれるので氣が置け
 ないと云つて居るし精神修養
 話でも聞けたら園主飯
 田近治氏に面接すれば心お
 きなくいろいろと親切に話
 をしてくれる

前神谷村長

佐藤久三郎氏
 の仁徳しのぼる

前神谷村長佐藤久三郎氏持たで語る「私は人様の云はれた同村の仁者として令名がはれるよふな技能は持つてあつたが同村々長に就職以居りません、嘗々婦女子の來殆むと寝食を忘れ病多か學ぶべき道を營んだけですりし身を不顧村治と救民とがお互に研究を仕合ふ考ひに留意され今日の明るき神谷村を現わした病あらたす」と言つ居られた

はリスク
 目丁五町平
 局藥邊野山

謹賀新年

- | | | |
|-------|-------|-----|
| 貴族院議員 | 比 成 | 金 通 |
| 衆議院議員 | 比 昌 | 鈴 平 |
| 衆議院議員 | 佐 辰三 | 鈴 木 |
| 衆議院議員 | 佐 庄太 | 鈴 藤 |
| 衆議院議員 | 太 秋之 | 鈴 藤 |
| 衆議院議員 | 佐 藤政 | 鈴 藤 |
| 衆議院議員 | 野 崎滿 | 萩 原 |
| 衆議院議員 | 野 崎滿 | 萩 原 |
| 衆議院議員 | 井 上茂 | 井 上 |
| 衆議院議員 | 井 上茂 | 井 上 |
| 衆議院議員 | 石 川德 | 石 川 |
| 衆議院議員 | 石 川德 | 石 川 |
| 衆議院議員 | 三 田暉 | 三 田 |
| 衆議院議員 | 三 田暉 | 三 田 |
| 衆議院議員 | 草 野三 | 草 野 |
| 衆議院議員 | 草 野三 | 草 野 |
| 衆議院議員 | 安 島重三 | 安 島 |
| 衆議院議員 | 安 島重三 | 安 島 |
| 衆議院議員 | 小 野晋 | 小 野 |
| 衆議院議員 | 小 野晋 | 小 野 |
| 衆議院議員 | 古 川傳 | 古 川 |
| 衆議院議員 | 古 川傳 | 古 川 |
| 衆議院議員 | 山 崎與三 | 山 崎 |
| 衆議院議員 | 山 崎與三 | 山 崎 |
| 衆議院議員 | 白 井正一 | 白 井 |
| 衆議院議員 | 白 井正一 | 白 井 |
| 衆議院議員 | 關 内忠 | 關 内 |
| 衆議院議員 | 關 内忠 | 關 内 |
| 衆議院議員 | 江 藤丈 | 江 藤 |
| 衆議院議員 | 江 藤丈 | 江 藤 |
| 衆議院議員 | 加 藤龍 | 加 藤 |
| 衆議院議員 | 加 藤龍 | 加 藤 |
| 衆議院議員 | 蓮 沼龍 | 蓮 沼 |
| 衆議院議員 | 蓮 沼龍 | 蓮 沼 |
| 衆議院議員 | 坂 本龜太 | 坂 本 |
| 衆議院議員 | 坂 本龜太 | 坂 本 |
| 衆議院議員 | 佐 藤三 | 佐 藤 |
| 衆議院議員 | 佐 藤三 | 佐 藤 |
| 衆議院議員 | 井 坂千代 | 井 坂 |
| 衆議院議員 | 井 坂千代 | 井 坂 |

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-------|-----------|-----------|--------|--------|---------|--------|----------|----------|------------|----------|-----------|---------|------------|----------|-----------|--------|----------|
| 磐城炭礦株式會社 | 入山探炭株式會社 | 古河炭礦株式會社 | 小田炭礦株式會社 | 五十嵐炭礦株式會社 | 浪花炭礦株式會社 | 杉山炭礦株式會社 | 川瀨炭礦株式會社 | 小田田吉次 | 神奈川炭礦株式會社 | 福島貯蓄銀行平支店 | 平藝妓屋組合 | 平料理屋組合 | 湯本藝妓屋組合 | 平町旅館組合 | 平西洋料理業組合 | 東部電力株式會社 | 湯本信用無盡株式會社 | 湯本温泉旅館組合 | 湯本西洋料理業組合 | 平三業保健組合 | 磐城片倉製糸株式會社 | 郡山無盡株式會社 | 石城郡内各學校長會 | 磐城共濟病院 | 磐城建物株式會社 |
|----------|----------|----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-------|-----------|-----------|--------|--------|---------|--------|----------|----------|------------|----------|-----------|---------|------------|----------|-----------|--------|----------|

大東京に輝く 福島縣人の消息

松屋百貨店
外賣部長

小泉三男氏

赤堀新平氏

彫刻界の寵兒

東洋の大百貨店に於ける而かも外賣部長としてその要路にある。小泉三男氏は石城郡澤渡村出身未だ青壯にして將來何邊迄延びるかを囑望されてゐる賢材である、大松屋が而かも外賣部長として重用するだけあつて愈々出で、益々業績を擧げて居る、至つて健全、故郷愛のために力を出してゐる

警城郷土の生んだ美術の大家赤堀新平氏の名聲は世に上余りにも周知せらるゝに、氏は品格上から見ても何處から見ても美術家若主人公である安藤氏は石城郡南の雄、大平勿來町長に近親にして、堅忍不拔な精神と奇才縦横に富む商人となつた、年齢四十前後界の大立物として信望を專ら出すして此の成域を見るに至るべきは論を俟たないのである

安齋 懐氏

信望に富む

猪狩庄助氏

土木請負業

本所の

伊藤パン商店

安齋郡二本松素封家の出身久しく海外の事務に従つて令名を馳せ後、現在の顯微鏡事業に従事するや氏の明晰なる頭腦は赴く處可ならざるなく、その技巧上に於ける蘊奥を究め斯業界の生字引とまで讃賞を恣にするに至つた。

安藤七寶焼店

を觀る

東京銀座通りに近く堂々たる安藤七寶焼店の看板を掲げ、店內何萬圓かの華麗優美にして陶器界の王者として自他共に許す貴器を所狭き迄に配列する安藤七寶氏の偉容こそは實に「見事」のものにして目を樂しましむるに足るものがある。

謹賀新年

福島縣平町材木町四十一番地
大日本モリス興業株式會社
福島縣營業所
支配人 星野庸治
電話四五六番

川前村
菊池薪炭店

川前村
松本豊松

入遠野村郵便局長
上遠野庄九郎

石城郡川部村小川
酒四時川 小野魯平

平町古物商組合

平町々會議員研究會一同

田村實業銀行
頭取 永山徳一

川前郵便局長
矢内半藏

川前村役場助役
川前消防組頭 永山忠二

平町城山(區長)
鍋田三重

平土木監督所長
小林清吉

土木請負
佐々木健一郎

前澤文太郎

只野忠康

荒川銀次

強口唯七郎

成瀬巴三

豊間漁港修築事務所
主任 淺田保司

中ノ作漁港修築事務所
越智正勝

小名濱漁業組合長
水野順弘

小名濱築港事務所
福來總十郎

平町播種小路
佐藤福太郎

魚間屋穴戸屋

魚間屋丸一屋

海浴旅館
濱屋旅館

契茶と食待私
松竹
平町南町
ハラダイス
平町南町
酒の神様鎮座する
カツエー
パツカス
常盤銀行脇

野村醫院
雙葉郡廣野村
野村醫院

魚清食堂部
古銀治町 木澤常松
鎌田町 金成國雅
モリタヤ洋品店
平町五丁目 電話三五三番

小瀧鑛泉
石城郡玉川村
効能 神經痛、リウマチス、胃腸病其他諸病に良し
眺望 絶佳湯槽清潔にして衛生に適す
湯本 鑛泉驛より自動車のお便り
質屋兩替店
多田井笑次郎
平町大工町 電話五九一番

野崎自動車部
平驛前
電話三四三、六五九番

石城銀行組合
遠藤角彌
原の町町長

中島寫眞館

平町田町

森合齒科醫院
電話七一番

萬屋自動車部
電話二七三

支那そば

上海

野崎自動車部

謹賀新年

宮城銀行

杵壽

遠藤角彌

石城銀行組合

氏の奮勉と正直なる營業は見よ同族が一日を追ふ元よりながら一面亦女傑として繁榮氣にみぎりつゝあして推賞するに余ある婦君の盛事は礦業所より濠々と

職田齒科醫院

仙臺市 株式宮城銀行

常盤銀行脇 杵壽

電話六八九番

石城銀行組合

中島寫真館

平町田町

人物を生きた事は本縣の誇りであるので信用も頗る厚る。而して今日の繁榮を致し、りとするに充分なるものが、將來の大成を愈々期待させる所以のものは主人伊藤君の努力によるものである。以下三面へ

【二面より】
氏の奮勉と正直なる營業は、見よ同族礦が日一日を追ふ元よりながら一面亦女傑として繁榮氣にみまがりつゝ、あして推賞するに余ある婦君の盛事は礦業所より濛々と伊藤君の女史の而かも敏才にして立昇る黒煙が無言の内にして永年に於ける血にに事實を物語つて居るではないか
出来得ないのである。
女史は一見して其の女史として恥かしからざる素質満點の人であつて頭腦の赴く處男性も遠く及ばざるの奮闘力と商略の所有者である即ち夫君を扶けて内助の効最もあり今日の大成を見る迄の大助勞者であつた、
さだ女史は石城郡四倉町「山八」佐藤八之助氏大船主の令嬢として幼より異彩を放ちつゝあつた淑女であつた。而して今や郷土の生むだ一代の女傑として禮讃されつゝある事も決して偶然ではないのである。

古川橋工事に
荒川銀治氏
平町土浦負業荒川銀治氏は平素書畫古類に多趣味な人であるが今同氏の請負工事中の古川橋修築に際し、同氏は約十年餘を費して、同橋の最も古風の雅味に富む珍畫を發見されたので、口々に此の方面の趣味を有する人々には、唯唯惜かないといふ話である。

日を追ふて隆昌に
進展しつゝある
川瀨炭礦
忍苦十年、終始一貫堅實地方に名ある横山美聲女なる素志を翻す處なく、其史は師としてその資格萬點の霸氣に於て堂々常磐炭礦として入門生多數を擁して界の川瀨幸治氏として奮闘居るが更に這般多忙のうを續けつゝあつた池中の黄ちを割いて態々京都に至り龍は今や昇天の意氣を示す小原流盛花瓶華の研究を重と共に堅壘に據りし同氏は、ね歸平されたが實に盛花と常磐炭礦界に於ける曉星として此世なき美術的のものとして強き曙光を輝すに至つたのとして好評されてゐる。亦同氏は最も頭腦の明な女史は教授上熱心を欠断を以つて周知せらるゝ人がないので日を追ふて入門だけに將來の活躍こそは期生の多きを加えてゐるをせすして一般から囑目されである。

謹賀新年

- 織田齒科醫院 平町南町 電話四一六番
- 増田耳鼻喉科醫院 平町南町 電話四八二番
- 高久病院 平町南町 電話五一三番
- 市原醫院 平町南町 電話一四四番
- 川井内科診療所 平町南町 電話一八一番
- 木村病院 平町新川町 電話二六七番
- 矢吹醫院 平町古銀治町 電話二六六番
- 吉田眼科醫院 平町新川町 電話二六六番
- 藤沼醫院 平町新川町 電話五〇七番
- 諸橋外科醫院 平町新川町 電話四六四番
- 鈴木眼科醫院 平町新川町 電話五八八番

- 森合齒科醫院 植田町 電話七一番
- 萬屋自動車部 果實 萬屋商店 電話二七三
- 鍋田三重 平町城山(區長)
- 濱屋旅館 電話十九番
- 西山千代治 保証責任長塚信用購買利用組合 専務理事

- 山田勇太郎 株式宮城銀行 専務取締役 電話六八九番
- 山田常磐銀行 水戸市 株式常磐銀行 電話二八番
- 柏屋旅館 四倉町 電話二八番
- 江口清 萬年瓦工業株式會社 電話三三番
- 龜屋旅館 久之瀨町 電話二番
- 額賀醫院 四倉町
- 横山彰介 平町三丁目 電話九六〇
- 魁文堂 平町
- 株式常磐銀行
- 原町支店
- 小高出張所
- 浪江出張所
- 株式七十七銀行
- 相馬原町支店
- 東華皇漢藥研究所
- 山野邊藥局 藥劑師 山野邊東次郎 平町五丁目角
- 釘屋酒店 平町 電話一五〇番

- 支那そば 滋養美味 出前迅速 電話五四五番
- 常磐銀行脇 杵壽 電話六八九番
- 西洋料理 黒猫
- 富岡町 秋田 秋田齒科醫院
- 明治生命保險會社 雙葉代店
- 大原榮三郎 電話二八番
- 富岡町 坂本榮助
- 小高町 時田子之助
- 浪江郵便局長 鈴木益雄
- 購買利用組合 佐藤五郎 雙葉郡新山町
- 大瀧村長 今野義意
- 大瀧村小學校長 佐々木清人
- 妙見散、妙見膏 諸處方調劑藥局 林藥品商會 小高町 電話五三番
- 木材建築請負新炭輸出商 古内龜次郎 小高町 電話四三番

- 原の町町長 遠藤角彌
- 志賀儀三郎 原町郵便局長
- 岩崎清 福島縣相馬郡原町
- 松本酒釀店 原町驛長
- 凌時幹 小高町助役
- 鈴木重郎治 仙臺煙草專賣局書記
- 錦織新太郎 小高町 張所長 伊藤博
- 小高神社 社司 相場胤良
- 岡田庄治郎 太田村長
- 飯野治郎 太田村尋常高等小學校 校長
- 材木商組合 原町 林 材木店 星 材木店 大 杉 材木店 加 藤 材木店 青 田 材木店 青 田 材木店 木 幡 材木店 佐 藤 材木店 伏 見 材木店 鈴木 材木店

- 野崎自動車部 平町前 電話三四三、六五九番
- 石城銀行組合 西洋御料理 サク
- 渡重商店 植田町 新炭 電話長一〇番
- 魚敬 平町南町 鮮魚 仕出し 電話六一七番
- 水産工業株式會社 福島縣小名濱町十五番地 電話六六番 一二〇番
- 小名濱町々會議員同志會 御料理旅館
- 新米錦盛館 御料理旅館 小名濱町 電話四番
- 酒喜庵 明として御奉出度う本年も相變らず御引立願ひます 御料理仕出し 電話一七一番 小名濱町 電話三七番
- 大 鰻蒲燒 電話一三三
- 松本樓 平町南町 電話一三三
- 富士 西洋料理(迅速) 電話六七七番

謹賀新年



平南町 青木寫真館 電話四二二番	平窪村 松本徳一	三國屋印刷所 電話五三三番	平二丁目 小松崎本店 電話三七九番	高久村長 好間村役場 村會 員一同	高久村助役 鈴木喜太郎	高久村 鈴木榮吉郎	酒造業(福田屋號) 本間佐源次	平田町 末廣 電話四二一番	三井自動車部 好間自動車部	平三丁目 芹澤自動車部 電話三九五番
九品寺住職 遠藤心光 電話六〇四	菩提院 桐原英純	金燈籠、銅像、梵鐘 工藤鑄造所 平七丁目 電話一〇七番	植田町 片岡醫院 電話一〇七番	平窪樋小路 鈴木鳥肉店 電話六五四番	植田町 前田醫院 電話一二四番	植田町 鈴木眼科醫院 電話一二五番	小名濱町 高木保	小名濱町 久保田醫院	小名濱町 中村醫院	三井生命社員 福島寛利 長橋町
平四丁目 會田時計店 電話一三六番	平田町 三二三屋肉店 電話三三三番	和泉屋旅館 電話二七番	鈴木自動車部 電話二七番	根本園茶店 電話二二七番	湯本町 吉田恭平商店 電話五二番	湯本郵便局長 鯨岡潔	綴郵便局長 四家又一	富岡町郵便局長 蛭田恭一	湯本町 楠正隆	植田町 渡邊徳之助
平四丁目 松崎長三郎 電話一七二番	平五丁目 大竹酒店 電話三三三番	平一丁目 坂本紙店 電話一八番	吉村製綿店 電話二五七番	荒物陶器 伊勢屋商店 電話四五番	平二丁目 中野洋品店 電話五三番	平一丁目 常盤屋時計店 電話三三九番	平四丁目 鶴屋洋品店 電話四〇番	平二丁目 藤市蒲鋒店 電話三〇五番	平三丁目 大黒屋勝治商店 電話一六六番	平四丁目 百澤商店 電話二二番
平五丁目 飯田近治	平一丁目 渡邊貫一	平二丁目 松田卯次朗	平三丁目 平館員一同	平組屋町 織田材木店 電話四六〇番	平二丁目 五十嵐商店 電話五四九番	平二丁目 鶴屋旅館 電話一三二番	平二丁目 松崎長三郎	平二丁目 大平屋藥店 電話六四二番	平一丁目 水野藥局 電話四〇番	平四丁目 關内藥局 電話四〇番

良品廉賣に勝る商略なし

磐城セメント 特約代理店

釜屋商店

磐城平町五丁目
電話九番 九九番
東京振替貯金口座一〇九五六

三井生命保險株式會社代理店
諸橋久太郎

平三丁目 横山彰介商店 電話九四番	平町宇古鍛冶町 大谷要次郎 電話四七四番	平町宇古鍛冶町 若松増平 平仲間町(九品寺前)	平町宇古鍛冶町 高岡屋商店 電話四〇六番	平町宇古鍛冶町 山田屋別館 電話二八番	平町宇古鍛冶町 山田屋本館 電話二八番	平町宇古鍛冶町 白萩平支店 電話四四三番	平町宇古鍛冶町 玉川酒店 電話六五二番	平町宇古鍛冶町 東北の名湯 高湯温泉(岩代信夫郡)	平町宇古鍛冶町 玉子旅館 後藤寅治
-------------------------	----------------------------	-------------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------------	-------------------------

天下の名湯たるは何人も周知の事實である。信夫郡土湯温泉では松川、土湯間を逗留の顧客に限り無料で観送迎することになった。世智辛ら此の世の中に實に驚異の一大奉仕である。未だ土湯の眞價を知らざる愛湯諸賢に一度の來土をお勧めする者である、其の理想的模範旅館は左記であるを御紹介する

木村屋 扇たや 富士屋 いさすや 向わさや 春美屋 山根屋 錦上温泉 不動湯

以上が聯盟を作り松川驛に下車し滞在の客に限り無料で送り迎ひするとの事を付記して置く